

小林雅一君を悼む

東京 依田 耕一

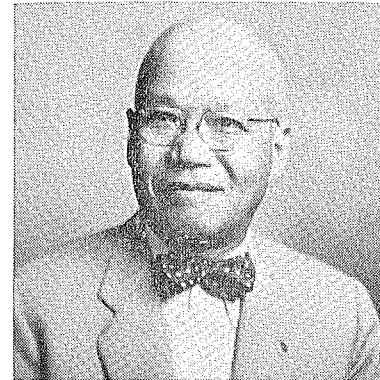
小林君 遂に永遠に君とお別れを告げなければならぬ時が来ました。生前「お互いどちらが先に逝っても残った者が弔い役をとめよう」と冗談話しをした事もありましたが、遂に君は僕を残して一人忽然と黄泉の客となり昇天されてしまった。今、君の霊前に於て、僕が君の弔詞を述べることになり、公私共に50年、お互いに朝から晩まで机を並べて来た君と別れるという事は、僕の始めて知る人生の淋しさと悲しみで胸が一杯です。

欲をいえば君には今後少くとも5カ年間は何としても生き永らえて貰いたかった。会社の創立50周年記念と君等御夫妻の金婚式を併せて盛大に御祝をしようと、お互いにその日を楽しみにしていたのに遂に実現出来ず、如何にも心残りや残念でたまりません。

小林君 君は明治34年、志を懐いて郷里の甲州韭崎を出て当時は汽車の便もなく船で、富士川を下って東京に出て、当時の第十銀行の頭取佐竹翁の御宅に食客となり、昼は銀行に勤め夜は夜学に通って奮闘されたとの事ですが、君の才能と努力はその当時から発揮され、銀行内においても将来を嘱望されていた様でしたが、君の向学心は強く、20歳の時に船底に這入って渡米し、桑港に渡り、しばらくここでも昼は働き、夜は夜学に通われ、遂

に螢雪の功なり、オハイオ州のオハイオ北部大学を立派に卒業し、ニューヨークの森村組に入社されている時、僕がたまたま1年遅れて入社し、初めて君を知り君の明晰な頭脳と奮闘努力の人柄にすっかり心を打たれ、それ以来、お互い一緒に机を並べて働く中に遂に2人で事業を始めようというような事になって、それから数年の後、これが実現を見るに至った次第であります。

君は森村組時代から商売よりむしろ地道な工場経営の方にむいている事を自覚し、夜はコロンビア大学に工場経営学を学ばれたのであります。時、恰も欧州第一次大戦でドイツからの雑貨輸入が杜絶し、日本からこれを輸入して補う事となり、その一つとして、日本から靴下を輸入して、これをアメリカの兵隊にはかせたらどうだろうかという事で、早速輸入したところ、余りにも粗雑な製品であったため、酷評を買い、吾々2人は考えて今後の日本における仕事として、靴下製造という事が相当な事業であるという事に着目し、そこで意見の一致を見て実行に決し、君はアメリカに残り機械や製造技術を研究する一方、僕は会社創立に専心すべく一足先に内地へ帰り、君の帰国をまって大正9年名古屋市外に資本金50万円で吾々の工場を造ったのが始ま



りて、今は亡き米山翁に万事御相談の上、2人で社長無しの常務制をしき、仕事を始めて以来苦節46年、その間震災や戦災等色々な出来事に遭遇しましたが、これを元気に切り抜け、又仕事の事ではお互いに机をたたいて激論を交わした事も度々ありましたが、心の通う吾々2人は常に心中何等のわだかまりもなくひたすら内外編物の育成に全力を集中し、今日の内外を見るに至り、かくして日本の靴下が世界の水準を抜くまでに至った事は、これは全く君の明晰な頭脳と驚くべき奮闘努力の賜に外ならないと、僕は堅く信じて居ります。

小林君 君と僕とは机を並べて50有余年、僕はただ平凡な普通の意志の弱い人間であるのに君は12の時から独力で奮闘努力した所謂セルフメードマンである。その君を生きた御手本として50年間、毎日君から学び得た教訓が僕の今日をあらしめ、どうやら人間らしく過せるようになったのも全く、これは君から得た教訓の賜で、僕にとって君は終生の大恩人であり衷心から感謝の全意を捧げたいと思つて居ります。

これから君とはお別れ致しますが、しかし君が残した偉業は永久に内外の歴史に燦然と輝き後世の内外人に何時迄も引き継がれる事

でしょう。尚、君は戦前戦後を通じ、日本靴下業界発展の為、東奔西走してその育成に尽力し、業界の生みの親、育ての親として業界の衆望を一身に集め昭和25年11月には君が業界に尽した功績が認められ、緑綬褒章を授与される等、君の生前を飾るに相応しく吾々も心からこれを喜び合ったものであります。

又、君は米山翁の知遇に感銘し、その恩義に酬ゆる為、米山翁晩年の大事業であった、日本ロータリーの育成を引き継ぎ、爾来40年我国ロータリーの初期時代から現在の最盛期を迎える迄全くロータリーの発展一筋に力を打ち込み、日本ロータリーの発展を全世界に認めしめたのも、一に君の熱心なる努力に負う処、大であります。殊に1958年には我国では初めての国際ロータリー第一副会長の要職に選ばれ、無事その大任を果たされたのであります。

その外、日本ユネスコ協会、日本YMCAの事業等、多方面に亘り公共福祉の為、尽力された行為は君のクリスチャニティとロータリーのフォア・ウェイ・テストの精神によって実行されたものであり、君ほど忠実にロータリー精神に生き抜き、内地は勿論、遠くは海外のロータリアンからも非常に親しまれ、敬愛を受けて居られた事は、これ偏々に君の身に込み込んだロータリー精神の発露であり全ロータリアンの深く感銘して居る処であります。

君は今、天寿を完うして昇天されましたが在天の米山翁は定めし天国で両手を挙げて君を抱擁され、喜びの涙でお迎え下さる事でしょう。後に残された吾々は君の遺志を十分に継承し、事業の達成に全力を注ぎ奮闘努力いたす覚悟で居ります。希くば君が在天の霊よ吾等の前途に御加護あらんことを乞ひ願ひ、ここに弔辭を呈し、御冥福をお祈り申し上げ、惜別の詞といたします。

(内外編物社長)